

第1日曜日
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～
その他の日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2021 (令和3年) 5. 16

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

祈禱会
第2日曜日 礼拝後
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

「選ばれた者の特権と責務」

牧師 松谷 祐二

アモス書 第九章七〜一〇節

イスラエルの人々よ。わたしにとってお前たちはクシユの人々と変わりがないではないかと、主は言われる。

わたしはイスラエルをエジプトの地から、ペリシテ人をカフトルから、アラム人をキルから、導き上ったではないか。

見よ、主なる神は罪に染まった王国に目を向け、これを地の面から絶たれる。

ただし、わたしはヤコブの家を全滅させはしないと、主は言われる。

見よ、わたしは命令を下し、イスラエルの家を諸国民の間でふるいにかける。ふるいにかけても小石ひとつ地に落ちないように。わが民の中で罪ある者は皆、剣で死ぬ。彼らは、災いは我々に及ばず、近づくこともない、と言っている。

(新共同訳聖書)

「イスラエル」は現在では国家の名として使われていますが、聖書の中では神との関わりの中で生きてきた一つの民族、民をあらわす名前です。

元々は、この民の祖先であるヤコブという人物に、神から与えられた新しい名前が「イスラエル」でした。ヤコブはイスラエルの子孫から始まった民族なので、「ヤコブの家」、「イスラエルの家」などとも呼ばれます。いわゆるユダヤ人のことです。

このイスラエルの人々は、古代エジプトで四百年の長きにわたって奴隷とされてきたところから、モーセに率いられて脱出し(出エジプト)、今日のパレスチナに來たとされています。もともと、聖書に即して言えば、モーセが、ではなく神が、「イスラエル」をエジプトから導き上ったのです。

聖書の神は、この人々を「わが民イスラエル」と呼んで、特別に大事にして來られたのです。

先祖ヤコブよりも昔にさかのぼればアブラハムがおりますし、モーセによる出エジプトからずっと後には、イスラエルの王としてダビデが登場し

ます。アブラハムもダビデも、神から特別な祝福の約束を受けました。この民イスラエルを神が一貫して愛し、導いてきたことを象徴するような人々です。

神がこの民を特別に愛されたのは、えこひいきではなく、世界中の諸国民に、あるべき姿を示すモデルケースとするためでした。神に愛され、神を愛し、神に従って生きるといことがどんなに幸いかを体現するのが、彼らに与えられた特権でもあり、責務でもありました。

現代、国民は選挙で政治家を選びますが、選ばれた者が負託に応えることを期待します。それを違えて「選ばれたのだから」と傲慢に振る舞えば、国民の怒りを買って当然です。まして、イスラエルの人々は神に選ばれた民です。神が選んでくださったのであれば、選ばれた民は恐れ謹んで、選ばれたことを大切に、それにふさわしく生きなければなりません。

しかし、イスラエルの人々がたどったのは——神が仮に、日本人なり、他の国民なりをお選びになつていたとしても同じ結果になつたでしょうけれども——、はき違えてばかりの歴史でした。自分たちが神の恩顧を受けていることを忘れて、不平不満ばかり言うこともあれば、神の仰せに反する生き方をしながら、「我々は神に守られているから大丈夫だ」と安易に自らを正当化することもありました。

冒頭の聖書箇所は、紀元前八世紀の預言者アモスを通して、神がイスラエルの人々に怒って語られた言葉です。「イスラエルの人々よ。わたしにとつてお前たちは、クシユの人々と変わりがないではないかと、主は言われる」。わたしのことをよく知らない異国の民と、お前たちとはどう違うのか。お前たちの生き方のどこに、わたしの選ばれた民らしい、特別な良さがあるのか。神はそう問い詰めて、裁きを宣告なさいます。「わが民の中で罪ある者は皆、剣で死ぬ。」非常に厳しい言葉です。

神に愛され、神を愛し、神に従って生きるといことがどんなに幸いかを体現する。これは素晴らしいことであるはずなのに、イスラエルの人々はその役目を果たせませんでした。いいえ、他のどの民にも、わたしたちにも、果たせなかったで

しよう。神に選ばれた者の特権と責務、その選別に完全に応えたのは、ダビデからおよそ千年後に來られた神の子、イエス・キリストただお一人でした。

しかもこの方は、イスラエルの人々に代わり、また世界中の諸国民に代わって、特権を十全に享受し、責務を果たされました。今のわたしたちをも、わたしたちより後の時代を生きていくすべての人々をも、実に全人類を代表して、イエス・キリストは神の選びに應えてくださったのです。「罪ある者は皆、剣で死ぬ」とされた神の裁きさえも、全人類に代わって受けてくださいました。それが、あの十字架です。

さらに、復活して天に昇られ、全能の父なる神の右に着座されたイエス・キリストは、聖霊を注いで、神の民イスラエルを建て直されます。

アモス書 第九章一節

その日には、わたしはダビデの倒れた仮庵を復興し、その破れを修復し、廢虚を復興して、昔の日のように建て直す。

本質的には、「建て直す」というよりも「新たに創造する」と言うべきかもしれません。新しい神の民は、イエス・キリストご自身が選び、「わたしに従いなさい」と召集して創り出されるのです。この民は、ユダヤ人も、他のどの国の人でも、イエス・キリストに召し出され、イエス・キリストを信じて従っていく、すべての人——いわゆるクリスチャンのことです——からなつています。目に見えるところではキリスト教は無数のグループに分かれ、しばしば対立さえ起こっていますが、本来にはただ一人のキリストを頭と仰ぐ、全世界で一つの教会(「聖なる公同の教会」)があるのみです。

彼らは神に選ばれた民です。選ばれた民は恐れ謹んで、選ばれたことを大切に、それにふさわしく生きなければなりません。昔のイスラエルの人々と同じで、はき違えてばかりいるかもしれない。しかし、彼らに代わって、選ばれた者の責務を完全に果たしてください。だから皆、ついでに彼らの先頭におられます。だから皆、ついでに彼らの先頭におられます。だから皆、ついでに

二〇二〇年度会計報告と予算の説明

六 戸 信次郎

今年も昨年続き、四月末に教会総会を開催することができませんでした。例年、教会員の皆様の前で前年度の会計報告と予算案についてお話をさせていただいている会計として、月報を使って少しご説明をさせていただきます。

二〇二〇年度の教会会計は結果として、黒字で終わることが出来ました。西南支区の総会で所属の教会の中には通常活動に支障が出かねないほど、財務状況が悪化している教会がある、との説明がある中、当教会が黒字で決算を終えることができたことは、神様のお守りと、教会員の皆様の多大な協力のおかげと、深く感謝しております。

二〇二〇年度は礼拝が教会堂で行えない状態が始まり、当然、席上献金や月定献金の先も見えない、とても不安なスタートでした。しかし、次第に郵便振り込みを利用した献金が増え始め、終わってみれば、総額で例年とほぼ変わらない献金を捧げていただきました。月定献金は当初の目標額にほぼ達しましたし、イースター献金、ペンテコステ献金は目標を上回りました。ただ、クリスマス献金だけは、十五万円ほど目標を下回りました。また、昨年度は当初より厳しい財政状況が予測されたので、南部坂幼稚園に、献金のお願いをしました。これらの結果、収入の総額は予算案にほぼ近い状況となりました。

支出の面では、特別伝道礼拝など、外部説教者に対する謝儀がなかったため、伝道

費が少なくなりました。また、諸集会費はイースターの墓前礼拝が中止になったことで減少し、建物費は、会堂火災保険を従来の民間の保険業者から、教団の共済組合に切り替えるなど、経費削減を図りましたが、園庭の樹木が伸び、伐採に予想以上の経費が掛かり、予算を超えてしまいました。さらに、最も大きな特色として、教会で礼拝が行われない間、郵便による連絡を増やしたこともあり、郵便等の通信費が予算をオーバーしました。教会負担金は、西南支区に対する負担金は今年免除されたため、予算を下回りました。

特別会計は、墓地会計、遺産献金、牧師退職金積立金、オルガン献金、神学生献金の特別会計は、特に支障なく例年通り推移しました。会堂建築特別会計は、一年間で七十二万円近い積立があったほか、交通事故による教会堂入り口の階段の修理補償金と工事代金未払い分の差額などにより、残高は八百万円を超えました。

さて、二〇二二年度教会予算の件ですが、相変わらず厳しい社会情勢が続く中、献金の大幅な増額は望めず、均衡予算を作成するのは、役員会は苦慮しました。議論されたのは月報を教会で内作するという案です。しかし、現在のところ印刷まで行う教会員のスタッフが不足しており、実施するには牧師に大きな負担をかけることとなります。そこで新年度は月報印刷を従来通り外部に依頼するが、発行を隔月として印刷費の低減を目指すこととしました。一昨年、財政悪化のため半減させた対外献金や、減額したままになっている牧師謝儀など、復活させたい科目は多々あるのですが、現状ではこれが精一杯と考えています。また、二〇二二年度予算には百周年記念事業費として、七十万円を計上しました。記念誌発

行と西南支区への記念献金を予定していますが、費用は予備費より支出することとしました。

イースターは既に過ぎ、新年度は始まっていますが、今年はかなり厳しい状況となることが推察されます。皆様のご協力を得て、今年も教会会計の正常化を目指していきたいと願っています。

報 告

* 南部坂幼稚園では、四月八日(木)に進級式、九日(金)に入園式が行われ、新年度が始まりました。幼稚園を覚えてお祈りください。

* 北上教会(加藤直樹牧師)より、教会設立六十周年記念誌をいただきました。
* 緊急事態宣言が出される状況となり、四月二十五日(日)に予定されていた教会創立百周年記念礼拝は再延期としました。また、礼拝後に予定されていた二〇二二年度定期教会総会は、書面による総会といたしました。今後、

・ 今回の宣言が明けるまで、礼拝堂での礼拝は休止する。礼拝堂では牧師の司式・説教と大司役員の奏楽で礼拝をさげ、その録音をインターネットで配信する。
・ 教会学校も、今回の宣言が明けるまでは休止する。
みなさまどうぞ、それぞれの場所で祈り、礼拝をお捧げください。インターネットをお使いにならない方で、毎週の録音CDの送付をご希望の方は、牧師まで一報ください。
* イースター献金(目標額六十万円)・ペンテコステ献金(目標額二十五万円)を、祈りをもってお捧げください。

《各部報告 四月度》

成人会

日時 四月十八日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 四名
開会祈祷 下奥敏子姉
内容
士師記 一章〜三章六節
神の助けで諸国民を滅ぼして「イスラエル」が強くなった。
モーセからヨシアへ救われてきた「民」は、ヨシアが死んだら別の世代が興った。エジプトから救い出してくださいと神のことを知らない世代へ。諸国民を追い出さず、娘を嫁がせたり、妻として迎えたりして、彼らの神々に仕えた。諸国民と「契約を結んではならない」「住民の祭壇は取り壊すこと」をしなかった。
神との契約を破ったのだ。神は怒りに燃え、敵の手に売り渡されたが、主がかわれに思われて「士師達」を使わされて助けた。「士師達」が死んだら又、諸国の神々に従った。

婦人会

休会

